

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成29年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
29-3	質の高い交通時代のモビリティの価値の計測手法開発に関する研究	広島大学 教授 藤原 章正	A
<p><研究の概要></p> <p>異なる時間価値や時間制約を持つ移動主体が共生する超高齢社会において、交通の時間価値の計測方法を再構築する。この手法を3つの事例研究へ適用し、質の高い交通時代の道路事業の包括的評価手法の有用性についてフィールド実験を通じて検証する。</p> <p><中間評価></p> <p>モビリティの価値についての学術研究として十分なレベルに達しているとともに、多様な移動主体が共生する時代における価値計測手法の構築に向けて、研究成果に期待が持てることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動運転システムの導入によるモビリティの価値の変化（向上）の計測にどのように収斂していくか。より具体的な道筋を示していただくとよい。 2. 自動運転システムを活用した新しい交通サービス（公共交通と私的交通の中間、多様なシェアリング）の可能性の議論と価値の計測に期待したい。 3. 多様な時間価値や時間制約をもつ移動主体が混在する社会の時間価値の計測においては、どのような価値の違いや時間制約の可能性があるかを整理することにより、今後の計測技術開発に資する成果としてほしい。 4. Connected 公共交通というシステムは、交通技術としては興味深いですが、単なる自動運転バスとの違いは何かなど、本研究で目指している超高齢社会に相応しい交通システムとしての意義を示すことが望ましい。 			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。